

すみます。ものは廻分しておくることをお

やっておくとよい 身の回りの整理

- 預金通帳や印鑑、暗証番号のメモなどはひとつにまとめておく
- 期限の切れた有価証券や契約書、通帳などは溜めないで処分する
- 本は図書館などに寄付をする
- 「処分してほしいもの」「借りているもの」など、分けてシールを貼る

印鑑、暗証番号を記したメモ、現金などは、できるだけひとつに保管。「〇〇の費用に充ててください」と一筆書いておくと、遺族も心配なく使うことができます。また、一人暮らし、家族と一緒に住んでいるかに問うたところ、遺族が困るのは、書類の扱いです。有価証券や保険証券、各種の通帳なども必要になりますが、これらを処分するためには、書類は山のように溜まってしまいます。

その中には、期別が切れてもそのまま必要なくなるものや、専門的な書類は門外漢では判断がつかねることも少なくありません。できることなら、書類は山のように溜まつてしまいますが、本の処分です。本は溜まる

まで、かつてお手伝いをさせていたいた遺品整理の現場で、通帳が三十冊でてきたことがあります。有価証券などもそうですが、「お金」に関するものは処分をする前にさまざまなもので、通帳が発生する前にさまであると、遺品整理の現場で、遺族が心配なく使うことができると思います。

また、かかる手数料を考慮しても、負担の大きい作業です。できるだけ近くの図書館に寄付をするなどして、必要なときに読みに行こうか。そのためには、預金通帳なども必要になりますが、本は溜まる

「エンディングノート」は
遺された者への心配り

私たちキーパーズでは、サークルの一環として独自で作成した「エンディングノート」を無償で配布しています。これは、家の内外を含めどこにどんなモノがあるのか、何をしてほしいかなど自分の希望などを書面的形式で記録したものです。いわば、「不意の終末の際に遺された者が困惑しないよう、先立つ者が準備する心配り」とでも言えればいいでしょうか。こうした「エンディングノート」を一冊持つておいて、遺族の負担をだぶ軽減することができます。

そこで、「モノ」の処分に関して、どのような項目が記載されているか、少し紹介しましょう。すべての遺品を処分しますか? 形見分けしてほしいモノはありますか? 他人から借りているモノ、お店からレンタルしているモノがありますか? 刀など許認可が必要なモノはありますか? 先代々大事にしているモノはありますか? 新しく買ったモノはありますか?

8 身じまい

「今」を充実させるために

遺品整理屋が教える 身の回りの整理

遺された家族の負担になることのひとつに遺品の整理があります。

とくに一人暮らしの場合は、すぐに片付けなくてはならないことも……。

家族の負担を減らし、さらに自分も残りの人生を楽しめる方法を、

数々の遺品整理の現場を見ってきた吉田さんにうかがいました。

吉田太一
・キーパーズ代表取締役



よしだ・たい一 1964年、大宮市生まれ。遺品整理業務を経て、94年、独立してお墓探し・遺品整理の専門会社「キーパーズ」を設立。東京、名古屋、大阪、福岡、富山、北陸地方を中心に事業を展開中。10年、地域支援会を開設。著書に『遺品整理は見た!』(扶桑社)、『おひとりさまでもいいじゃろう!』(ボブラー社)、『遺品整理は見た!』(扶桑社)、『おひとりさまでもいいじゃろう!』(吉野出版社)など。

人の死には必ず形あるモノ」「遺品が残ります。それをご遺族に代わって整理し、あるモノは形見として遺族に届け、あるモノは僧侶を呼んで供養する——それが遺品整理屋の仕事です。

日本で初めて遺品整理業を立ち上げて早八年。この間、孤立死した方など、一万件以上の遺品整理の現場に関わってきて感じるのは、遺品は故人がどのように暮らしてきましたか、どんな考え方を持っていたか、何を大切にしてきたのかを表す——言い換えば、故人の「生き様」そのものであるということです。

遺品が生き様であるなら、せめて遺された者に迷惑をかけたくない、負担をかけたくないと考える方もいらっしゃることであります。そんな方のために、ここでは多くの遺品整理の経験の中から、生前にやつておくと遺族が助かる最低限の身の回りの整理についていくつかお話ししてみたいと思います。

意外に大変なのが 紙類の処理

家族とともに居っていて、家の財布を奥さんが握っているのなら、たいていは問題ありませんが、一人暮らしの場合、遺族に迷惑がかかる最大の要因は「お金」です。遺品整理の費用やアパートの家賃、また葬儀を出す場合、はその費用など、故人に蓄えがなければ、遺族の方が負担しなければなりません。

遺族に迷惑をかけたくないと考える方も多いらしいることであります。そのためのため、このまま多くの方が遺品整理の経験の中から、生前にやつておくと遺族が助かる最低限の身の回りの整理についていくつかお話ししてみたいと思います。

お考えなら、いくばんかのお金を銀行預金や現金で「終末」に充てる費用としてアーリーしておくれのも先立つ者の心配りと言えます。金額はケースバイケースで概には言えませんが、遺品整理をお願いすることになる予想されるなら二十万~三十万円、葬儀まで考えるなら最低五十五万~一百万円は必要になります。費用を貯めた預金通帳やカード、

PHP ほんとうの時代 2010年11月号

| 42 |